

スキル科目

| 授業科目 | 講義題目 | 単位 | 担当教員氏名 | 曜日・講時 | 平成30年度以前入学者 読替先授業科目 |
|--------------|--|----|---|-------------|------------------------|
| 研究倫理特論 | 研究と実践の倫理 | 2 | 原 塑、戸島 貴代志、阿部 恒之、木村 邦博、坂井 信之、辻本 昌弘、小林 隆、小泉 政利 | 前期 水曜日 5講時 | |
| 西洋古典文化特論 | 西洋古典文化への招待 | 2 | 萩原 理 | 後期 水曜日 5講時 | |
| 人文社会科学研究Ⅰ | 死から生を考える臨床死生学：人間の死とは何か？ | 2 | 大村 哲夫 | 前期 月曜日 2講時 | |
| 人文社会科学研究Ⅱ | 悲嘆学試論：自他の死をどう受け止めるか？ | 2 | 大村 哲夫 | 後期 月曜日 2講時 | |
| 英語発表技能演習 | 英語の学術発表 | 2 | CRAIG CHRISTOPHE | 後期 火曜日 4講時 | |
| 英語研究論文作成法Ⅰ | Advanced Academic WritingⅠ | 2 | PHILLIPS MAX | 前期 水曜日 4講時 | |
| 英語研究論文作成法Ⅱ | Advanced Academic WritingⅡ | 2 | PHILLIPS MAX | 後期 水曜日 4講時 | |
| 日本語研究論文作成法Ⅰ | アカデミックライティングの基礎 | 2 | 高橋 亜紀子 | 前期 火曜日 2講時 | |
| 日本語研究論文作成法Ⅱ | アカデミックライティングの書き方 | 2 | 高橋 亜紀子 | 後期 火曜日 2講時 | |
| 日本語・日本文化論特論Ⅰ | Studies of Japanese Culture (Advanced Lecture)Ⅰ/日本文化論特論Ⅰ | 2 | KOPYLOVA OLGA | 前期 木曜日 4講時 | |
| 日本語・日本文化論特論Ⅱ | Studies of Japanese Culture (Advanced Lecture)Ⅱ/日本文化論特論Ⅱ | 2 | KOPYLOVA OLGA | 後期 木曜日 4講時 | |
| 人文統計基礎演習 | 人文社会科学研究と社会貢献のための統計学入門 | 2 | 木村 邦博 | 前期 月曜日 2講時 | |
| キャリア設計演習 | キャリア・イメージを作る | 2 | 猪股 歳之 | 後期 木曜日 3講時 | |
| 科学技術社会論実践演習 | <人間中心>で情報端末をデザインする | 2 | 直江 清隆 | 前期集中 その他 連講 | |
| デジタルアーカイブ特論 | デジタルアーカイブの基礎と活用 | 2 | 田村 光平 | 後期 木曜日 4講時 | |
| アーカイブズ学研究演習 | アーカイブズ学研究法 | 2 | 加藤 諭 | 前期 木曜日 2講時 | |

科目名：研究倫理特論／ Research Ethics (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：原 塑、戸島 貴代志、阿部 恒之、木村 邦博、坂井 信之、辻本 昌弘、小林 隆、小泉 政利

コード：LM13506, 科目ナンバリング：LAL-OAR509J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究と実践の倫理
2. Course Title (授業題目)：Research Ethics
3. 授業の目的と概要：科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方でも導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々（大学院生を含みます）は、倫理的・手続的に正しい仕方でも研究や研究発表を行なう責任を負っています。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で研究が行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければなりません。この授業では、研究倫理と公正な研究に関する基礎を講義し、その上で、それぞれの研究手法に応じた倫理的問題とその問題への対処方法について複数教員が担当し、解説します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, the theoretical basis of research ethics and integrity, as well as ethical problems typical of various research fields of humanities and social sciences are discussed.
5. 学習の到達目標：研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通りです。
 1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。
 2. 実験・調査参加者や、その他の関係者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。
 3. 責任ある仕方でも研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、その規範を遵守すること。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand research ethics and integrity, and to be able to practice research based on that understanding.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、オンライン、非同期授業として実施します。
授業内容は以下の通りです。

第1回：イントロダクション（担当：原塑）
第2回：人間と技術（担当：戸島貴代志）
第3回：科学と倫理（担当：戸島貴代志）
第4回：人を対象とした医学系研究における倫理（担当：坂井信之）
第5回：心理学実験における倫理（担当：坂井信之）
第6回：質問紙調査研究の実践と倫理（担当：木村邦博）
第7回：研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向（担当：木村邦博）
第8回：フィールドワークにおける倫理の基本原則（担当：辻本昌弘）
第9回：フィールドワークにおける倫理の実践的問題（担当：辻本昌弘）
第10回：聞き取り調査の実践と倫理の諸問題（担当：小林隆）
第11回：著作権・商標・特許等の問題について（担当：阿部恒之）
第12回：研究不正の防止と対応（担当：小泉政利）
第13回：引用において気をつけるべきこと（担当：原塑）
第14回：ピア・レビューと研究の質保証（担当：原塑）
第15回：研究の再現性（担当：原塑）
8. 成績評価方法：

平常点30%、e-ラーニングの受講20%、レポート50%
9. 教科書および参考書：

教科書は使指定された教科書はありません。参考書は授業時に教えます。
10. 授業時間外学習：講義内容について十分、復習を行ってください。授業内容について独自に調べ、理解を深めた上で、それをレポートとしてまとめていただきます。また、公正な研究について、e-ラーニングを受講する必要があります。e-ラーニングの受講方法については、初回の授業で指示します。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：西洋古典文化特論／ Western Classical Culture (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LM23507, 科目ナンバリング：LAL-0AR510J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋古典文化への招待
 2. Course Title (授業題目)：Introduction to Western Classical Culture
 3. 授業の目的と概要：古代ギリシャ・ローマの文化について基本的な事柄を学び、西洋古典古代の世界に馴染む（その知識は様々な場面で役立つはずである）。歴史、言語、哲学、宗教、諸芸術（文学・演劇・美術）の重要事項を学ぶ。また、西洋古代文化が後代に与えた影響や、日本でのその受容にも若干触れる。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall learn basics about Greek and Roman cultures such as history, language, philosophy, religion and arts.
 5. 学習の到達目標：西洋古典文化に馴染み、最重要事項について説明できるようになる。西洋文化の今後の研究に活かせるようになる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：To get acquainted with Western classical cultures.
To be able to explain basic facts about Greek and Roman cultures.
To be ready to make use of your knowledge about those cultures for further studies in culture at large
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
講義形式だが、積極的に質問してもらいたい。
最後 2 回ほどで、希望者によるプレゼンも行なう。プレゼンを行わない参加者には学期末レポートを提出してもらう。
参加者の関心を尊重して内容を調整したい。
 1. イントロ
 2. ギリシャ・ローマの歴史 (1)
 3. ギリシャ・ローマの歴史 (2)
 4. ギリシャ語とラテン語
 5. ギリシャ・ローマの哲学と宗教 (1)
 6. ギリシャ・ローマの哲学と宗教 (2)
 7. ギリシャ・ローマの哲学と宗教 (3)
 8. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (1)
 9. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (2)
 10. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (3)
 11. ギリシャ・ローマの美術 (1)
 12. ギリシャ・ローマの美術 (2)
 13. 西洋古典文化の後代への影響
 14. プレゼンテーション
 15. プレゼンテーション
- 講義とは別に、毎回出す読書課題（たとえば、ホメロス『イリアス』全 24 巻を毎週 2 巻ずつ読み進めるなど）について感想を交換する。
8. 成績評価方法：
プレゼンテーション または 学期末レポート
 9. 教科書および参考書：
授業中に指定する
 10. 授業時間外学習：読書課題（たとえば、ホメロス『イリアス』全 24 巻を毎週 2 巻ずつ読み進めるなど）。授業の内容の復習。プレゼンテーションまたは学期末レポートの準備
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
受講にあたり、あらかじめ学んでおかなければならないことは特になし。

科目名：人文社会科学研究 I / Advanced Study of Humanities and Social Sciences I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：大村 哲夫

コード：LM11209, 科目ナンバリング：LAL-0AR511J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死から生を考える臨床死生学：人間の死とは何か？
2. Course Title (授業題目)：Clinical thanatology thinking about life from death: What is a person's death?
3. 授業の目的と概要：人は自らの死を経験することはできないが、他者の死を通して学ぶことは出来る。人間だけが、「自分もやがて死ぬことを意識できる生物」である。死は「自然現象」であると同時に、自他の死を受容する「文化現象」でもある。ヒトという生物の生である「人生」は、自己と他者である事物を結びつけ、それに意味を与えることによって作られる。「偶然」のできごとが「運命」の出会いとなるなど、人の生は合理的な思考のみで生きているわけではない。人生そのものが映画や小説のテーマとなるように、人は非合理的な生き方に意味を見出している。人があえて「合理的ではない行為」をとる時、その行為には心理的に深い意味が込められているのだ。人の死に関わる「葬送」、「慰霊（供養）」、「墓参」なども非合理的な行為であるが、当事者にとって意味ある行為となる。自他の死の受容についても同様に、合理と非合理、立場の相違によって揺れる。本講では、具体的な「他者の死」から「自己の死」をデザインすることを通して、私たち一人一人の「生」を摸索する一助としたい。従って知識を教授するのではなく、考えるための材料を提供するという講義方式をとる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：People cannot experience beforehand their own death, but they can learn from the death of others. Only humans are “animals that are conscious of their own mortality.” Although death is a “natural phenomenon” it is also a “cultural phenomenon” where we must accept our death and those of others.
The life of the living organism known as man is “human life,” which is given meaning by the connection between the self and others. Just like how we turn the “coincidence” into the “fateful” encounter, a person does not live within rational thought alone. Life itself like the plot of a novel or movie is a person discovering meaning in irrational way of living. When a person must perform an “irrational act,” that action is embedded with deep psychological meaning. Funerals, memorializing the dead, and visiting the grave, which are related to a person's death, are irrational acts, but they become meaningful acts to the person performing them. How one's own death and that of others is received likewise sways between rational and irrational differing with the situation. It is hoped that the designing of our “own death,” based on the real “death of others,” will aid in each one of us humans as we journey through our lives.
5. 学習の到達目標：1. タブー視されがちな自他の「死」を、具体的な事例を通して考えることによって、自らの「生」の意味を探る。
2. 「延命治療」や「尊厳死」、「安楽死」、脳死、臓器移植、緩和医療、認知症、死に場所、「終活」、葬儀など現代の問題について自ら考える力をつける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Explore the meaning of one's own life by thinking about the concrete examples of how people tend to view their own death and those of others as taboo.
2. Critically think about the contemporary problems such as “Life-support treatment” and “Dignity in dying”, brain death, organ transplant, palliative medicine, place of death, “Preparation for the end of life,” and funerals.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
以下の内容(予定)についてテーマを選択し、事例を通して考える。それぞれのテーマについて数回の講義を行う。ミニット・ペーパーを利用した匿名のディスカッションを行うことによって、死に方・生き方には普遍的「正解」はなく、それぞれの人や置かれている状況によって異なることを学ぶ。
0：イントロダクション 闇の中でこそ光が
1：現代人の死に場所 病院死と在宅死
2：「ホスピス」とシシリー・ソンドース
3：緩和医療とスピリチュアル・ケア
4：臓器は誰のもの？ 死の判定と臓器移植
5：あらかじめ決める 「安楽死」と「尊厳死」、「事前指示」
6：自らの死をデザインする 「エンディングノート」、「終活」
7：死を受容する心理 キューブラー＝ロスの5段階説
8：グリーフ・ケアとしての5段階と意味再構成
9：「よく生きること」と「ただ生きる」こと
10：ある少女の選択 命は誰のもの？
COVID-19 への対応のため前期は classroom を使う予定です。
8. 成績評価方法：
毎時、ミニット・ペーパー提出。学期末課題論文提出。

9. 教科書および参考書：

特に定めないが、授業の中で参考図書を紹介する。

Additional references and texts will be provided by the instructor.

1 0. 授業時間外学習：40分程度の予習と復習。

About 40 minutes of study is required.

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

後期に同時間に展開される講義の前半であるが、単独受講を妨げない。

科目名：人文社会科学研究Ⅱ／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences II

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：大村 哲夫

コード：LM21208, 科目ナンバリング：LAL-0AR512J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：悲嘆学試論：自他の死をどう受け止めるか？
2. Course Title (授業題目)：Grief Studies Theory
3. 授業の目的と概要：人は生きていく上でさまざまな「悲嘆 (grief)」と遭遇する。誰でも起こりうる普遍的な経験と言える。自分にとってかけがえのないもの：自分のいのち、大切な人、仕事、能力、ペット、故郷、記念となる物…を「喪失 (loss)」した時、私たちは心理面はもちろん、身体的にも痛みを覚え、さまざまな症状をおこす。「悲嘆」とそれへの対応は、人類のはじまりより共にあるものの、「学」として確立された領域というより、むしろ実践的な「知恵」の側面をもつ。本講ではこうした現状を踏まえ、悲嘆をケアすること (grief care) と、悲嘆からの立ち直り (grief work) について、「宗教」の役割にも触れつつ考えていきたい。前期と同様、事例 (ビデオを含む) を用いて展開する。講義は知識を教授するのではなく、考えるための材料を提供するので自ら考える力が求められる。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Throughout their lives people have many encounters with “grief” 悲嘆. When faced with the “loss” 喪失 of those things that are indispensable to us, such as a memento, native home, pet, loved one, or even with our own life, then we feel the pain not only psychologically, but also physically. Such pain manifests in a variety of symptoms. Despite that grief and the coping with grief has accompanied humankind from its inception, rather than having an established domain as a field of study, instead an aspect of practical “wisdom” 知恵 exists. With an awareness of this current situation, in this lecture class we will explore how to care for grieving people (grief care) and how to help people overcome their grief (grief work) while thinking about the role of religion.
5. 学習の到達目標：1. 悲嘆という現象について理解する。
2. 悲嘆を癒す「グリーフ・ケア」について学ぶ。
3. 悲嘆からの立ち直り「グリーフ・ワーク」について学ぶ。
4. 悲嘆と共に生きることについて考える力をつける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Understand about the phenomenon of grief.
2. Learn about how to ease grief (grief care).
3. Learn about how to overcome grief (grief work).
4. Critically think about how to live with grief.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
以下の内容 (予定) から選択し、可能な限り事例を通して考える。ミニット・ペーパーを利用した匿名のディスカッションを行うことによって、自ら考えるとともに他者の考えを知り、考えを深める。
 0. イントロダクション；「永訣の朝」 他者の死と私,
 1. 悲嘆と喪失
 2. 「ここは天国だよ」 認知症患者の世界と死の受容
 3. 死者のヴィジョン 「お迎え」か「譫妄」か
 4. 寝たきりの人生 『病牀六尺』
 5. 苦しみの意味づけ,
 6. 自己の死と予期悲嘆
 7. 看取り
 8. 死別の癒し：葬儀・宗教儀礼の意味,
 9. 意味再構成理論,
 10. 『子を喪へるの親の心』,
 - 1 1. 災害死, 死者におくる卒業証書,
 - 1 2. 民間信仰：地蔵によるケア,
 - 1 3. 信仰治療 宗教と癒しなど, Guatemala の信仰治療
 - 1 4. 現代的死の受容：遍在と自然回帰,
 - 1 5. その他

online で実施する場合は、classroom を使う予定です。
8. 成績評価方法：
毎時ミニット・ペーパーの提出。学期末課題論文提出。
9. 教科書および参考書：
特に定めないが、授業の中で参考図書を紹介する。
Additional references and texts will be provided by the instructor.
10. 授業時間外学習：40分程度の予習と復習。
About 40 minutes of study is required.

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

前期の後半であるが、本講義のみの受講も妨げない。前期の進捗状況によって講義内容は変更されることがある。

科目名：英語発表技能演習／ Academic Presentation(Practicum)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE

コード：LM22407, 科目ナンバリング：LAL-0AR513E, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語の学術発表
2. Course Title (授業題目)：Academic Presentation in English
3. 授業の目的と概要：授業では、英語の学術の環境の中で研究を報告の仕方を学ぶ。また、全面的に英語の学会やシンポジウムに参加する方法を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class offers practical instruction on presenting research in an English-language academic setting. It also provides instruction on various aspects of participation in English-language academic conferences and symposia.
5. 学習の到達目標：英語の学会やシンポジウムに参加し報告することが出来るための必要の技術を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The primary goal of the class is for students to gain the skills necessary to present at and participate in English-language academic conferences and symposia.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 序論:英語の学会
 2. 発表・報告の基本
 3. ディスカッションと質問
 4. 学生発表と フィードバック
 5. 学生発表と フィードバック
 6. 学生発表と フィードバック
 7. 学生発表と フィードバック
 8. 学生発表と フィードバック
 9. 学生発表と フィードバック
 10. 学生発表と フィードバック
 11. 学生発表と フィードバック
 12. 学生発表と フィードバック
 13. 学生発表と フィードバック
 14. 学生発表と フィードバック
 15. 学生発表と フィードバック
8. 成績評価方法：

Presentation [60%], Discussion participation [40%]
9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。
Necessary readings will be distributed.
10. 授業時間外学習：1 回研究発表
12 回ディスカッション
1 presentation
Discussion participation (each class)
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
This class is taught in English.

科目名：英語研究論文作成法 I / Advanced English for Academic writing I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：PHILLIPS MAX

コード：LM13410, 科目ナンバリング：LAL-0AR514E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Advanced Academic Writing I

2. Course Title (授業題目)：Advanced Academic Writing I

3. 授業の目的と概要：Generally, there are 2 strategies for teaching academic writing: 1) Assume the students know very little about academic writing thus teach all the basics systematically; upon course completion, students are prepared to write (at their English ability) anything. 2) Teach, through revision of previous written materials.

I teach the first strategy. I assume you can write, but that you don't really understand the conventions of academic writing nor how to organize in a manner similar to the way native speakers would.

With that in mind, this course is an introduction to the basic skills needed to produce academic-type writing. Students will be learn how to logically arrange their thoughts into coherent essays. As part of the course, students will learn: a) how to write effective thesis statements, b) strategies for pre-writing, writing, organization, revising and proofreading, c) various word-, sentence-, and paragraph- level strategies for improving the quality of their writing, and d) how to focus and develop ideas, among other skills.

Since the situation with the corona virus remains uncertain - I will be developing 2 streams for the course (1 for in-classroom and 1 for distance education). They share the same content, but the method of teaching it will be different, obviously. If we are in the classroom, it will be taught as a mix of lecture, worksheets, workshops, etc.. If the class are via distance education there will be mix of live classes, pre-recorded lectures, and workshops.

You can expect to submit some written homework every week, except the first week and workshop days.

NOTE: as a registered student, you will have access to me at anytime via email.

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Generally, there are 2 strategies for teaching academic writing: 1) Assume the students know very little about academic writing thus teach all the basics systematically; upon course completion, students are prepared to write (at their English ability) anything. 2) Teach, through revision of previous written materials.

I teach the first strategy. I assume you can write, but that you don't really understand the conventions of academic writing nor how to organize in a manner similar to the way native speakers would.

With that in mind, this course is an introduction to the basic skills needed to produce academic-type writing. Students will be learn how to logically arrange their thoughts into coherent essays. As part of the course, students will learn: a) how to write effective thesis statements, b) strategies for pre-writing, writing, organization, revising and proofreading, c) various word-, sentence-, and paragraph- level strategies for improving the quality of their writing, and d) how to focus and develop ideas, among other skills.

Since the situation with the corona virus remains uncertain - I will be developing 2 streams for the course (1 for in-classroom and 1 for distance education). They share the same content, but the method of teaching it will be different, obviously. If we are in the classroom, it will be taught as a mix of lecture, worksheets, workshops, etc.. If the class are via distance education there will be mix of live classes, pre-recorded lectures, and workshops.

You can expect to submit some written homework every week, except the first week and workshop days.

NOTE: as a registered student, you will have access to me at anytime via email.

5. 学習の到達目標：Students will learn how to organize their English writing to an appropriate level, through a systematic, step-by-step approach.

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn how to organize their English writing to an appropriate level, through a systematic, step-by-step approach.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

このクラスコードは zamuy6y です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

- 1) Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules
- 2) Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies
- 3) Basic Sentence Structure; Parallelism Rules
- 4) Writing an Outline; Basic Paragraph Structure
- 5) Basic Essay Structure
- 6) Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading
- 7) Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment
- 8) Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment
- 9) Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast
- 10) Organization 2 - Chronological Order
- 11) Organization 3 - Cause/Effect
- 12) Workshop 2 (E2 one-on-one)
- 13) Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language
- 14) Workshop 3
- 15) Semester Exam

8. 成績評価方法：

Final grade to be determined by: homework, submitted essays, and workshop participation.

9. 教科書および参考書：

Course Syllabus based on "Discoveries in Academic Writing," by Barbara Harris Leonhard and "Teaching Academic Writing" by Eli Hinkel.

10. 授業時間外学習：Attendance is mandatory. Students who accrue more than 2 unexcused absences will be expelled from the course. No auditors are permitted.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英語研究論文作成法Ⅱ／ Advanced English for Academic writing II

曜日・講時：後期 水曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：PHILLIPS MAX

コード：LM23410, 科目ナンバリング：LAL-0AR515E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Advanced Academic Writing II

2. Course Title (授業題目)：Advanced Academic Writing II

3. 授業の目的と概要：Prerequisite: Successful completion of AAWI. In addition to research writing, AAWII seeks to develop students' ability to adapt to a broader range of writing situations, while writing at a deeper level. AAWII encourages the development of an individual 'voice'. For example, where in AAWI a student might have developed the ability to write an essay clearly and persuasively for an educated general audience, AAW II seeks to move beyond that to developing a unique perspective and voice appropriate to higher level academic writing.

As a study-abroad, international, or exchange student, you may challenge the prerequisite. Please send email for details on how to challenge the requirement.

This writing course is designed as 2-part course. See Advanced Academic Writing I for more information.

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Prerequisite: Successful completion of AAWI. In addition to research writing, AAWII seeks to develop students' ability to adapt to a broader range of writing situations, while writing at a deeper level. AAWII encourages the development of an individual 'voice'. For example, where in AAWI a student might have developed the ability to write an essay clearly and persuasively for an educated general audience, AAW II seeks to move beyond that to developing a unique perspective and voice appropriate to higher level academic writing.

As a study-abroad, international, or exchange student, you may challenge the prerequisite. Please send email for details on how to challenge the requirement.

This writing course is designed as 2-part course. See Advanced Academic Writing I for more information.

5. 学習の到達目標：Students will learn how to organize and write a multi-page research paper, which necessarily includes citations to other people's work.

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn how to organize and write a multi-page research paper, which necessarily includes citations to other people's work.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

The lectures are through online classes (on-demand and live classes via Meet).

- 1) Course Introduction; The Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources
- 3) Gathering Source Material - Evaluating Sources
- 4) Note-Taking
- 5) Using the Internet for Research
- 6) Considering Organization
- 7) How to Organize Notes / Write Outline
- 8) Workshop 1 (Outline - rough draft)
- 9) Integrating Source Material; First Draft Writing
- 10) Understanding Citations; Documenting Sources In-text
- 11) Paper Format; Documenting Sources Post-text
- 12) Workshop 2 (rough draft of main body)
- 13) Writing Introduction and Conclusion for Research Papers
- 14) Writing Workshop 3 (rough draft of paper)
- 15) Abstract Writing"

8. 成績評価方法：

Final grade will be determined by: homework, research paper, and workshop participation.

9. 教科書および参考書：

Course Syllabus based in part on: MLA Style Manual and Guide to Scholarly Publishing, 3rd Ed.

10. 授業時間外学習：Attendance is mandatory. Students who accrue more than 2 unexcused absences will be expelled from the course. Absolutely no auditors.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：日本語研究論文作成法 I / Philosophy (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM12212, 科目ナンバリング：LAL-0AR516J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アカデミックライティングの基礎

2. Course Title (授業題目)：Academic Writing I

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を正確に、わかりやすく書けるようになることです。そのために、日本語で文章を書くときに必要な基礎的な知識、文法、表現などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： The aim of this course is to help students acquire basic academic writing skills in Japanese. This course also furthers the development of a student's skills in writing reports and research papers properly. In addition, students have opportunities to practice peer review and improve their reports.

5. 学習の到達目標： 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける
2 読み手にわかりやすく書く力をつける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goals of this course are to:

1. develop the writing skills and learn useful expressions.
2. learn proper sentence construction.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では、classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。
クラスコードは、qvh4n6g です。
classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. オリエンテーション
2. 自己紹介文を書く
3. 自分の研究を紹介する
4. 書き言葉のルール
5. 過程を説明する
6. 定義を説明する①
7. 定義を説明する②
8. 分類・例示を説明する①
9. 分類・例示を説明する②
10. 比較・対照を説明する①
11. 比較・対照を説明する②
12. 原因・結果を説明する①
13. 原因・結果を説明する②
14. 全体のまとめ①
15. 全体のまとめ②

8. 成績評価方法：

宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%
以上の割合で、総合的に判定する

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『Good Writing へのパスポート』（くろしお出版）、『レポート・論文を書くための日本語文法』（くろしお出版）など

10. 授業時間外学習：ほぼ毎回、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語研究論文作成法Ⅱ／ Advanced Japanese for Academic writing II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM22209, 科目ナンバリング：LAL-0AR517J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アカデミックライティングの書き方

2. Course Title (授業題目)：Academic writing II

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を作成する手順にそって、レポートを完成させるまでのプロセスを学ぶことです。そのために、テーマの調べ方や資料の調べ方、文章の構成の仕方、引用の方法などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students learn and experience the process of writing a report in Japanese. This course also furthers the development of a student's research skills. Specifically, in developing a research topic and thesis, reviewing relevant literature, and learning writing structure and citation methods. In addition, students have opportunities to practice peer review and improve their reports.

5. 学習の到達目標： 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身につける
2 読み手にわかりやすく書く力をつける
3 レポートや論文を作成する方法を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goals of this course are to

1. develop the writing skills and learn useful expressions.
2. learn proper sentence construction.
3. learn the skills necessary for writing a report or a research paper

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：オンライン）

1. オリエンテーション
2. テーマを見つけよう・調べよう
3. 資料の探し方を知ろう
4. 資料を整理しよう・話し合おう
5. 資料を読んで整理しよう
6. テーマの絞り込みと定義の重要性を学ぼう
7. 定義の書き方を考えよう
8. 筆者の意図と構成を考えよう
9. タイトル・アウトラインを作成しよう
10. 引用方法や参考文献の書き方を学ぼう
11. レポートを書くときの表現を学ぼう
12. レポートを作成する前に確認しよう
13. ともだちのレポートを読んでフィードバックをしよう
14. フィードバックを読んで、よりよい文章に直そう
15. 自分のレポートを読んで、自分の成長をまとめよう

8. 成績評価方法：

宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%

以上の割合で、総合的に判定する

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。参考書は『あしか：アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』（ココ出版）、『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』（ひつじ書房）

など

10. 授業時間外学習：ほぼ毎回、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語・日本文化論特論 I / Studies of Japanese Culture (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LM14401, 科目ナンバリング：LAL-0AR518J, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Studies of Japanese Culture (Advanced Lecture) I / 日本文化論特論 I

2. Course Title (授業題目)：Studies of Japanese Popular Culture

3. 授業の目的と概要：本授業は江戸時代初期から 2000 年代までの期間に焦点を絞り、日本のポピュラー・カルチャーの進展を辿っている。日本における創造生産の特徴、人気のあるコンテンツの種類及び典型的な消費パターンを紹介し、それを形成した要素を学生に考察させる。それによって日本のポピュラー・カルチャーの概要だけでなく、大衆文化の根本的な原理の理解が成立することが期待される。さらに、皆さんが講義と課題によって日本のポピュラー・カルチャーをめぐる研究と接触し、これから自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course focuses on the history of popular culture in modern and contemporary Japan (from Edo to the early 2000s): its main media forms, genres, and practices. It aims to describe multiple phenomena that have shaped cultural production and consumption patterns in Japan, as well as various media and artifacts that are now known worldwide. Beyond the main topic of the course, described above, students will get a better grasp of popular culture in general and understand the main principles of its development. The assignments introducing various samples of academic writing on the Japanese popular culture will allow students to discover new lines of inquiry potentially applicable in their postgraduate research.

5. 学習の到達目標：——江戸時代初期から 2000 年代にかけての日本の大衆文化の全貌を把握する。

——各々のメディア、ジャンル、また創造産業の登場と展開を裏付ける歴史的状況、技術、そして社会の相互作用を理解する。
——日本におけるメディアや消費活動などの特徴についての知識を活用し、世界中の大衆文化における傾向、また消費者と生産者の関係などを分析できる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to:

- 1) Describe the overall history of popular culture in Japan from the Edo period to the early 2000s.
- 2) Explain how historical circumstances, technological developments, and social changes came together to give life to new forms of entertainment media, genres, professions, and creative industries.
- 2) Recognize specific features of Japanese media and consumer behavior, but also find analogs and parallels in other countries where possible; use this understanding of the specific and the common to discern world-wide trends in popular culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

The course will be conducted in English, however supplementary reading may include materials in Japanese.

1. Introduction: Various cultures - popular culture
2. Proto-popular culture in Edo period I: Life and entertainment in cities and in the countryside
3. Proto-popular culture in Edo period II: Play and liminal spaces, traveling
4. Proto-popular culture in Edo period III: Yōkai and hayarigami
5. The Taishō period: Urbanization, westernization, new forms of entertainment
6. After the World War II: From the occupation into the tumultuous 60s
7. The affluent 70s: The arrival of kawaii culture
8. Many faces of 'kyara': yurukyara
9. A brief history of Japanese TV
10. Idols, celebrities, and promotional agencies I: Tarento
11. Idols, celebrities, and promotional agencies II: Idols
12. Mass media and scandal in Japan
13. Proliferation of otaku hobbies at the end of the 20th century
14. Final test
15. Review of test results and closing notes

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席 (20%)、課題 (40%)、期末テスト (30%)、および授業への貢献を加味する (10%)

9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習：Students are required to read the materials provided to them by the lecturer and complete

corresponding assignments before class.

Students are also encouraged to actively draw examples and cases from their own experience of popular culture within and out

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：日本語・日本文化論特論Ⅱ／ Studies of Japanese Culture(Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 木曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LM24402, 科目ナンバリング：LAL-0AR519J, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Studies of Japanese Culture (Advanced Lecture) II/日本文化論特論 II

2. Course Title (授業題目)：Studies of Japanese Popular Culture

3. 授業の目的と概要：本授業は「日本文化論特論Ⅰ」をもとに、日本におけるポピュラー・カルチャーとファン・カルチャー（オタク文化）の相互関係を説明する。具体的に言えば、オタクの根本的な価値観、興味及び指向、そしてそれに応じたコンテンツの分類を解説した上で、創造産業と消費者の相互影響を明らかにする。各々の創造産業の事情と戦略、コンテンツと物語内容の関係性、表現メディアの特徴、ファン活動と消費パターンといった幅広いテーマが取り上げられ、受講者が様々なメディアやそれに関連するサブカルチャーの特徴について知ることができる。皆さんがこの授業によって自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：As a direct continuation of 日本文化論特論Ⅰ (taking the first course is not a strict requirement), this course demonstrates how popular culture in Japan mixes with a more niche fan (otaku) culture and vice versa.

It describes typical fan practices and values and proceeds to demonstrate how creative industries (for instance, TV producers, publishers, or game developers) interact with consumers (especially fans) and how different types of IP are disseminated and used. Through this course, students will gain an opportunity to consider multiple phenomena that distinguish cultural production in Japan, from economic conditions that influence creative industries, to consumption patterns and fan activities, to storytelling techniques, to the specificity of various media. Students will develop a more nuanced understanding of various entertainment media and their most dedicated consumers, on the one hand, and be able to discover new lines of inquiry potentially applicable in their postgraduate research, on the other hand.

5. 学習の到達目標：——オタク市場に関わる主な表現メディアの歴史を把握し、メディアの生産、流布と消費の特徴、あるいはメディアの相互関係についての知識を有する。

——日本のオタク文化及びファンの消費行動の特徴、それに関連する主な概念を知り、他の国におけるファン・カルチャーとの共通点あるいは類似点を見いだせる。

——日本のポピュラー作品を多面的かつ包括的に解説し、様々な観点から評価できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to:

- 1) Describe major media associated with Japanese otaku market, their history, specifics of their production, distribution and consumption, as well as their relations with other media.
- 2) Recognize key concepts of the otaku culture and general trends in fan consumption in Japan; but also find analogues and parallels in other countries where possible; use this understanding of the specific and the common to discern world-wide trends in popular culture.
- 3) Consume and evaluate works of Japanese popular culture from multiple standpoints, addressing both form and content and taking into account factors that might have shaped the former and the latter.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

The course will be conducted in English, however supplementary reading will include materials in Japanese.

1. The many faces of otaku: the history of fan practices in Japan
2. Different types of fan engagement and fan creativity
3. What is media mix? Creative industries and transmedial franchises
4. Various media of otaku market I: anime industry
5. Various media of otaku market II: how anime is made
6. Various media of otaku market III : how manga is made
7. Various media of otaku market IV: manga industry
8. Various media of otaku market V: light novels
9. 2.5-jigen practices I: anime tourism (contents tourism)
10. 2.5-jigen practices II: cosplay
11. 2.5-jigen practices III: voice acting in the Japanese popular media (history)
12. 2.5-jigen practices IV: voice acting in the Japanese popular media today
13. 2.5-jigen practices IV: 2.5 stage plays/musicals
14. Final assignment
15. Review of the final assignment and closing notes

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席（20%）、課題（40%）、期末の課題（30%）、および授業への貢献を加味する（10%）

9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習：Students are required to read the materials provided to them by the lecturer and complete corresponding assignments before class.

Students are also encouraged to actively draw examples and cases from their own experience of popular culture within and out

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文統計基礎演習／ Statistics for Humanities (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LM11208, 科目ナンバリング：LAL-0AR520J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人文社会科学研究と社会貢献のための統計学入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Statistics for Humanities and Social Sciences
3. 授業の目的と概要：人間および社会に対する理解を深め研究・社会貢献を行うための統計学的素養を身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this seminar is to help students to learn elementary statistical methods for understanding human beings and their societies.
5. 学習の到達目標：学術論文やメディア報道などにおける「統計の誤用」の事例を検討することを通して、データ収集法・統計分析手法の基本的な考え方を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the methods of data collection and statistical analysis by examining the examples of the misuse of statistics in academic writings and journalism.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。
 1. 授業計画の説明：人間社会と統計
 2. 事例、定義、計測
 3. 情報収集法、選択的注意、権威、測定法
 4. 代表値、比率・率、相関・関連
 5. グラフ、データビジュアライゼーション
 6. 推定値、変化の要因、トレンド予測
 7. リスク計算、コーホートなど
 8. 情報源の権威、関心の影響など
 9. 測定・集計手続きによるバイアス、利害衝突の影響など
 10. 無作為抽出、統計的検定
 11. 実験における攪乱要因の統制とその限界
 12. 調査データによる統計的因果推論の方法
 13. 文章データの統計解析
 14. 新しい時代の統計学(1)：ベイズ統計
 15. 新しい時代の統計学(2)：ビッグデータ
8. 成績評価方法：
期末レポート (Google Classroom で提出) [50%]、平常点 (授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程) [50%]
9. 教科書および参考書：
教科書：ジョエル・ベスト『統計という名のウソ』白揚社、および Google Classroom で配付する文献
参考書：佐伯胖・松原望『実践としての統計学』東京大学出版会、ほか (授業で指示する)
10. 授業時間外学習：(1) 演習の時間に取り上げる章や文献を事前に読んで検討しておく。
(2) 担当の章・文献に関する報告の準備 (事例の収集を含む) をする。
(3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認し、初回の授業に必ず参加すること。

科目名：キャリア設計演習／ Carrier Design Seminar

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：猪股 歳之

コード：LM24303, 科目ナンバリング：LAL-0AR521J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：キャリア・イメージを作る
 2. Course Title (授業題目)：For making a concept of your own profession
 3. 授業の目的と概要： この授業では、大学院文学研究科学生が、日本の経済構造や労働法制といった基本事項について理解を深めるとともに、実際の「働く」現場のあり様について具体的なイメージを持ち、自らの将来のキャリアを主体的にプランニングしていけるよう、キャリア支援センターと共同して実践的な教育指導を行います。取得単位はスキル科目として修了単位にカウントされます（学生便覧で確認のこと）。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, students of the Faculty of Arts and Letters will deepen their understanding of basic matters such as Japan's economic structure and labor legislation, have a concrete image of the actual "working" field, and take the initiative in their future careers. We will provide practical educational guidance in collaboration with the Center for Career Support so that you can plan. Credits earned will be counted as graduation credits as an undergraduate specialized education subject (check the Student Handbook).
 5. 学習の到達目標：職業生活についての具体的なイメージを得て、自らのキャリアについて主体的に構想していけるようになる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to get a concrete image of their own work-life and think independently about their careers.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. 日本経済の基本構造について(1)
 3. 日本経済の基本構造について(2)
 4. ビジネス全般について(1)
 5. ビジネス全般について(2)
 6. ビジネス全般について(3)
 7. 公務員
 8. 労働法
 9. 二十歳のハローワーク（様々な職種で活躍する先輩等による就職講演会）
 10. インターンシップ・業界研究セミナー
 11. 公務員等業務説明会
 12. OBOGによる業界・仕事研究セミナー
 13. 自己分析と就職活動(1)
 14. 自己分析と就職活動(2)
 15. まとめ
- 授業の実施形態：オンライン
8. 成績評価方法：

授業と指定されたセミナー等への出席およびその報告の提出（100%）。
 9. 教科書および参考書：

特になし。必要な資料は授業時に配付する。
 10. 授業時間外学習：授業中に指示された課題の準備。日常的に、新聞・ネット等を通じて経済情報に目配りすること。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：科学技術社会論実践演習／

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：1 学期集中 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM98822, 科目ナンバリング：LAL-0AR522J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：＜人間中心＞で情報端末をデザインする
 2. Course Title (授業題目)：Designing "human-centered" information terminal
 3. 授業の目的と概要：情報技術の急速な発展により社会のあり方に大きな変化がもたらされてきた。新たな技術革新によってこれまでと違った可能性が開けてくることが期待されている一方、情報技術を介した社会や個々の人間の関わりや企業や研究者の担う責任にも大きな変化が生じてくることが予想されている。
この授業は、情報端末に焦点を当て、いかにして情報技術が人間の wellbeing (幸福、よい状態) に貢献できるかを議論し、これからの技術社会を適切に予想、評価しながら、社会と IT を協調的に発展させていく方法を獲得することを目的とする。
 4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The rapid development of information technology has brought about great changes in society. While new technological innovations are expected to open up new possibilities, human-society relations mediated by information technology and the responsibilities of companies and researchers will also change dramatically.
This course provides students with opportunities to discuss from many perspectives whether and how information technology contributes to enhancing human wellbeing (happiness, good state), gain the skills needed to anticipate and review the future IT society, and to find a way to develop IT cooperatively with the society.
 5. 学習の到達目標：1) IoT に関する倫理的、社会的な問題について、多様な側面からのアプローチを通して解決の方向や手法を学ぶ。また、2)異なる立場、専門分野の人々の発想を理解し、コミュニケーションを取れる能力を身につける。
 6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students learn about 1) directions and methods for solving social issues using various approaches (technical, ethical, economical and so on), and 2) develop the ability to understand and communicate with people in different positions and specialties.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業は、多様な参加者によるワークショップとそれと相補うレクチャーによって構成される。ワークショップの参加者には、企業の技術者、理工系の大学院生、文科系等の大学院生を予定している。普段ふれあうことのない人びととのコミュニケーションを通じて、異なる立場の参加者が統一的なテーマについて自由に意見を交わし、共通の議論を創りあげていくことが目標となる。また、ワークショップの議論の後、議論を深化させる機会を設ける。
6月に本年度の授業の内容についての説明会を開催するので、Classroomなどで確認して欲しい。レクチャー及びワークショップは9月6日～8日に集中講義の形で行うが、対面（可能ならば合宿）かオンラインかはコロナの状況により判断し、説明会の場で明らかにする。
 1. オリエンテーション
 2. レクチャー1「情報科学から見た情報端末」
レクチャー2「歴史や社会から見た情報端末」
 3. 討論、ワークショップの方法の説明
 4. アセスメント1「現在の情報端末を人間中心の観点から評価する」
 5. アセスメント1 報告・全体討論
 6. デザイン「2040年の「人間中心の情報端末」を考える
 7. デザイン「2040年の「人間中心の情報端末」を考える
 8. デザイン 報告・全体討論
 9. アセスメント2「社会に与える変化を予測する」
 10. アセスメント2「社会に与える変化を予測する」
 11. アセスメント2 報告・全体討論
 12. フォローアップ・レクチャー1「高齢化社会と情報端末」
フォローアップ・レクチャー2「IoT 社会と環境、資源」
 13. フォローアップ・レクチャー3「IoT 社会と市民参加」
フォローアップ・レクチャー4「IoT と地域社会の実例」
 14. アセスメント3＜人間中心＞な社会を仮想で作ってみる 15 全体討論 人間中心的社会とは何か
- 授業は、直江清隆(文学研究科)/高浦康有(経済学研究科)/堀尾喜彦(電気通信研究所)/佐藤茂雄(電気通信研究所)/山内 保典(高度教養教育・学生支援機構)および外部講師により行われる。
8. 成績評価方法：
発表・授業への取り組みや小レポートを総合的に評価する。
 9. 教科書および参考書：
特になし/No textbooks will be used.
 10. 授業時間外学習：website や書籍を通して、授業内容に関する情報や話題を収集すること。/Students are required to

collect information

and topics related to the content of the class using websites and books.

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

ワークショップには定員を設ける。この際、理工系の大学院生と文科系等の大学院生(及び学部生)のバランスも考慮するので、(可能性は低い)参加希望が叶えられない場合もありうる。

本実習のフォローアップ企画として「未来社会デザイン塾」を開設し、希望者を塾生として雇用する。この塾への参加により、ポスター発表や市民カフェなどの活動を通じてワークショップやレクチャーの成果を発展させることができる。

科目名：デジタルアーカイブ特論／

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：田村 光平

コード：LM24403, 科目ナンバリング：LAL-0AR523J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：デジタルアーカイブの基礎と活用

2. Course Title (授業題目)：Basics and Applications of Digital Archives

3. 授業の目的と概要：情報技術は、記録の保全・継承・活用等に関する諸課題の解決に大きく貢献することが期待されている。前半は、デジタルアーカイブの基礎的な紹介をするとともに、なぜ今デジタル・アーカイブが注目されているのか、さまざまな社会的課題と関連づけて紹介する。後半は、デジタルアーカイブに関する技術の基礎を紹介し、デジタルアーカイブの構築・運用のための知識を習得するとともに、実際のデジタルアーカイブ構築を経験する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is an introduction to digital archives. Recent developments in information technologies are expected to solve a wide variety of issues in archiving. This course will be divided into two parts. The first half will outline the basic concepts of digital archives and briefly illustrate social changes related to digital archives and information technologies. The second half will explain the basics of information technologies related to digital archives. Further, we will touch on practice to develop a digital archive collection.

5. 学習の到達目標：デジタルアーカイブの意義や課題を、情報技術に関わる社会的な諸課題と結びつけて理解する。デジタルアーカイブ構築を経験する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are: (i) to understand the significance and issues of digital archives, particularly in connection with social issues caused by technological developments, and (ii) to gain experience in developing a digital archive.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・デジタルアーカイブとはなにか
2. デジタルアーカイブの多様性
3. デジタルアーカイブへの期待
4. デジタルアーカイブによる保管と継承
5. デジタルアーカイブによるアクセスの拡大
6. デジタルアーカイブが拓く可能性
7. デジタルアーカイブの活用 1：研究とデジタル・ヒューマニティーズ概論
8. デジタルアーカイブの活用 2：教育・アウトリーチ
9. 中間まとめ
10. 技術的な話題 1：概要
11. 技術的な話題 2：基礎
12. 技術的な話題 3：デジタル化の方法
13. 技術的な話題 4：サーバー、データベース、規格
14. 実習：デジタルアーカイブの構築
15. 最終まとめ

8. 成績評価方法：

受講態度 [20%]、レポート [40%]、演習の成果物 [40%]

9. 教科書および参考書：

以下を参考書として挙げる。

柳与志夫（責任編集）『入門 デジタルアーカイブ』（勉誠出版）

後藤真・橋本雄太（編）『歴史情報学の教科書』（文学通信）

10. 授業時間外学習：授業前に読んでおくべき資料を提示することがある。中間まとめ時にレポート、最終まとめ時にデジタルアーカイブの提出を求めるため、授業時間外に作成する必要がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

後半は PC の持参が必要な回がある。個人用の PC を持っていない場合は、初回のガイダンス時に相談すること。

科目名：アーカイブズ学研究演習／

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：加藤 諭

コード：LM13210, 科目ナンバリング：LAL-0AR524J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アーカイブズ学研究法

2. Course Title (授業題目)：Research Methods in Archival Science

3. 授業の目的と概要：本講義は、実際にアーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの業務について、ディスカッションや実践を通じて体得する授業である。アーカイブズ機関の現場で求められるアーキビストの使命・倫理、資料保存に関する技術、公文書の保存・修復・利用に関する知識、専門的な知識やマネジメント、職務上必要なスキルやマネジメント能力について、理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture is a class in which students learn about the work of archivists actually required in archives through discussion and practice. Students will deepen their understanding of the mission and ethics of archivists required in the field of archives, techniques related to document preservation, knowledge of preservation, restoration, and utilization of official documents, expertise and management, and skills and management abilities necessary for their work.

5. 学習の到達目標：本講義は、現場のアーキビストとのディスカッションや、マネジメントに関する演習等をおこない、アーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの知識・技能を体得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：In this lecture, students will have discussions with archivists in the field and practice management to acquire the knowledge and skills required of archivists in archival institutions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. アーキビストの使命と役割
3. 国立大学法人における文書管理と連携
4. 大学アーカイブズにおける保存・修復・利用
5. 大学アーカイブズにおける MLA 連携とアウトリーチ活動
6. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践①
7. 自治体アーカイブズにおける業務と実践①
8. 自治体アーカイブズにおける業務と実践②
9. 民間アーカイブズにおける業務と実践
10. 自治体アーカイブズにおける業務と実践③
11. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践②
12. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践③
13. 東北大学史料館における記録資料の整理公開①
14. 東北大学史料館における記録資料の整理公開②
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

9. 教科書および参考書：

エリザベス・シェパード、ジェフリー・ヨー（共著）、森本祥子、平野泉、松崎裕子（編・訳）『レコード・マネジメント・ハンドブック：記録管理・アーカイブズ管理のための』日外アソシエーツ、2016年、スー・マケミッシュ、マイケル・ピゴット、バーバラ・リード、フランク・アップウオード（共編）、安藤正人、石原一則、坂口貴弘、塚田治郎、保坂裕興（訳）『アーカイブズ論：記録のちからと現代社会』明石書店、2019年

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし